

パチンコ店で開催されるイベントに、その影響が最も強く出たようだ。

「もう、あんな指導内容ならイベントなんかできない。仕方がないので『当局の指導によりイベントを自粛します』と謳ってイベントを全部やめました」(中部地区のパチンコ店幹部)

広告代理店が悲鳴を上げるのも無理もない話である。

## イベント内容が変わる

とにかく「事実以外の射幸心をそそるような(非出るかのような)広告宣伝はNG」という理解が進みだした七月末。パチンコ店側は「じゃあ事実ならいいんだな?」という形の広告宣伝に路線を切り替え始めている。

パチンコ店の広告で最も重要な事実は今も昔も同じで「新台入替」である。これは「×月×日に○○という機種が△台導入される」という、スケジュール上の事実を告知しているにすぎない。なので、原則としてこれはNGとはされない。

ところがこれにも少々、異を唱える警察本部もあるという。

「新台入替ってのは『新台』なんだから一回だけの告知だよな? 単に事実を述べたというのであれば、二回も三回も同じ機種が『新台』と謳われることはないな? っつ警察が言うんだ。だから一回だけの告知になるね、残念だが」(九州地区のパチンコ店長)

「新台入替」という言葉は、「新台だから出しますよ」という意味だと、客はとるものである。ただしこの慣習は、現在ではすでに建前となつてしまい、新台入替だからといって本当に出す店は減少している。しかし、それでも信用する客もいるということ、この方向に傾きやすいパチンコ店を牽制する警察本部もあるというから、今回の事態がいかにパチンコ店に混乱を与えているか、想像するのはたやすいだろう。

さて、ここ最近で台頭したパチンコ店のイベントに「ライター系イベント」というのがあるのを読者はご存じだろうか。パチンコ雑誌やパチンコ番組などに

演ずる、タレント化したライターたちが来店するイベントである。

某広告代理店によると「著名芸能人を呼ぶより予算が抑えられ、かつ、客にとつては本当に出していると信用されやすいので集客効果も高い」とのこと。これが変わってきたようだ。

いや、正確に言うなら「ライター系イベントの需要は高い」のだが「店舗で客をおおるような行為ができない」ために「ただ来店して店で遊技して、たまにマイクを保持して、当たり障りのないことをアナウンスする」という形式になりつつあるという。

常識的に考えればこのようなイベントが成立するのか、と疑問に思うところだが、そういうことでもしないと「効率的な広告宣伝ができない」ということなのである。

パチンコ店は法改正を伴わなくても警察庁の鶴の一声でここまで変わる。その実態は八月以降のパチンコ店の現場で容易に確認することができる。